

灯



高等学校の野球特待生問題が耳目を集めている。高野連の幹部が違反がこんなに多いとは、と嘆いてみせたが、多くの人は何を今更、という思いではなかっただろうか。

高校に、特に私立高校に特待生制度、あるいはスポーツ奨学生制度があることは周知の事で、学校案内等にもおおむね記載されている。従って高野連の幹部の方々が予想外、と言われてもにわかには信じがたい。野球部がないわが校でもスポーツ奨学生制度は長年運用している。

また、この問題に関して文部科学大臣が生徒に迷惑がかから

ないように、と発言していることは当然として、特待生制度はこれを改善？して親元から通える範囲内で運用したらどうかと高野連に呼びかけるといふ。おそらくは野球留学を意識したのもと思われるが、私学の立場か

特待生問題の立場から



草野 義輔

らは納得しがたい考え方だと思

う。元来私学は通学区域に縛られず、私学の持つ特性や教育のあり方を広く訴え、それに呼応した人が私学を選択してくれるものである。

日田市にはかつて咸宜園と

いう私塾があり全国から数千人の塾生が集まったという。野球に限らずゴルフの宮里藍選手や卓球の福原愛選手も留学組である。私学も自制すべき点はあるだろうが、スポーツで特性を持たせ、そこにあがれて集まる生徒を非難することは誰にもできないのではない

か。今回の事態は野球を介して大人の間で金銭が絡んでいる問題が、高校の特待生制度問題にすり変わってしまったことを見落としてはならないと思つ。

もう一つ。高校には高等学校体育連盟という組織がある。野球も体育の一つであるからこの高体連で十分だと思うのだが、野球だけが高野連という別組織になっている。なしか？

(日田市昭和学園高校理事長)